

知っておきたい新型コロナの豆知識 (3)

2020年4月

twitter「china tips by myokoi」 主持人 横井正紀
myokoi6212@gmail.com

中国ではこのような情報を一般の人が見て、知識としています。

特徴を理解していただけると幸いです。

(中国の4月上旬~4月中旬にネットで流れている信憑性のある話題で、twitter「china tips by myokoi」に掲載した中から、ウイルスの特徴に関するものをクリップ)

- 30歳から40歳の若年世代の新型コロナウイルス感染患者が、突発性脳梗塞を発症する確率が、過去2週間で7倍増加。患者のほとんどに既往歴はなく、新型コロナウイルス感染症の症状は軽症あるいは無症状感染者だったという。米ニューヨーク・マウントサイナイ医科大学の医師が発表。
- 中山大学付属第6病院を中心にした研究によると、感染者の21%が入院期間中に下痢の症状を発生。同時に多くの感染者に血便の症状が見られる。これらの結果は新型コロナウイルスの消化器を通じた感染メカニズムを裏付けている、としている。
- 新型コロナウイルスが引き起こす疾患の代表は肺炎だが、このウイルスの受容体は全身のほぼすべての組織において発現する。特に胃腸では発現量が高い。胃腸の症状を見落とせば、一部の患者の感染確定の妨げになり、ウイルスの経口感染の危害を拡大する恐れがある。中国専門家の見解。
- 中国では、無症状感染者の潜伏期は3~7日が大半で、最長は14日にのぼると見られている。
- 中国の感染対策の最も成功した経験は、川上の予防策。患者が感染した場合、当局はその濃厚接触者に強く注目。感染が確定すると、本人は自宅で隔離。濃厚接触者も隔離される。これは中国の最も成功した経験の一つ。これにより感染者を減らすことができた。
- WHOが、世界各地70万人以上の感染者の統計分析を行ったところ、男女比は1.03:1、患者全体の平均年齢は51歳で、うち男性は52歳、女性は50歳。
- 新型コロナウイルスは明らかにコロナウイルスの一種で、SARSウイルスとの相同性は80%。異なる動物、特にセンザンコウとコウモリの体内で非常に似たウイルスが見つかっており、相同性が95%以上。ウイルス遺伝子から自然界由来のウイルスから派生と分かる。仏パスツール研究所の見解。
- 米スクリプス研究所のクリスティアン・アンデルセン准教授チームが、新型コロナウイルスの菌株の遺伝子配列データを比較した結果、新型コロナウイルスは自然界で発生したことが、はっきりと確認できると、科学誌「ナチュラル・サイエンス」に発表。ウイルス表面のタンパク質がいつ変異したのか、関連の変異が感染流行の起点となったのかを確認することは現時点では不可能。ウイルスは随分前からあり、感染力が弱いため発見されていなかった可能性もある。ウイルスは自然に発生した。テュレーン大学医学院のロバート・ゲイリー博士の見解
- 中国の数万人の新型コロナ回復者を見ても、長期的にウイルスを所持する状況は確認されていない。そのため現在の知識によると、個体が新型コロナウイルスに感染後、長期的にウイルスを所持する可能性は極めて低い。専門家の意見。
- 現在知られている新型コロナウイルスは主に呼吸器内で増殖し、慢性的に所持する可能性は低い。その同類である2種のコロナウイルス、例えばSARSや中東呼吸器症候

群を引き起こした2種のコロナウイルスについては、感染者が持続的にウイルスを所持することは確認されていない。専門家の意見。

- 現段階で新型コロナウイルスにはインフルエンザウイルスのように高い変異性が確認されておらず、常態化する可能性は高くない。一方、新型コロナウイルスは感染力が強いとする専門家もいる。すでに4種のコロナウイルスが季節的に流行しており、新型コロナウイルスも季節的流行する可能性はある。
- 2月6日と17日に新型コロナ感染による死者がいたことを、米カリフォルニア州サンタクララ県が発表。彼ら中国や当該ウイルスに接触する可能性のある場所への渡航歴がない。1月初旬から1月中旬にかけてこのウイルスに感染した模様。米国初の新型コロナ感染による死亡例は2月29日と言われていた。
- 独ビオンテックと米ファイザーが共同で開発を進める新型コロナワクチンについて、ドイツ当局が臨床試験実施を許可。新型コロナワクチンの治験が承認されたのはドイツでは初。上海復星医薬とビオンテックはmRNAを用いた開発プラットフォームでの新型コロナワクチンの研究開発で提携している。
- 阿里巴巴（アリババ）と京東は、新型コロナウイルスの検査予約サービスを開始。ユーザの位置情報に合わせて近隣の検査施設の予約ページが表示される。価格は地域によって異なり、上海では180元、北京では258元。まず9都市で実施し、順次拡大する考え。
- 武漢市の新型コロナ感染治療トリアージの一部。軽症と重症の患者を分け、異なる治療を採用。65歳以下で基礎疾患のない軽症患者に対しては、通常、臨時医療施設で治療を実施。65歳以上の患者は、多くが基礎疾患を抱えていることから、通常は収容治療条件が比較的良い病院で入院治療を実施。
- 武漢市で新型コロナ感染者のうち、年齢が100歳以上の患者は計8人、うち7人が治癒・退院。最高齢は108歳。80歳以上の患者は累計約3000人。重症化率は約40%、治療成功率は約70%。
- 中国の科学研究チームが交流及び学術研究を行っている国・地域は140以上。主な内容には中医薬、クロロキン、ファビピラビル、トシリズマブ、及び回復期の血漿や幹細胞など一連の製品及び科学研究の成果が含まれる。新型肺炎臨床研究の進展及び臨床応用経験が、交流における重点となっている。
- 武漢市で200人以上の幹細胞治療例がある。現在の結果を見ると、新型コロナウイルス肺炎の臨床治療の幹細胞応用は高い安全性を示している。同時に回復期の血漿も臨床治療で一定の治療効果を示している。現在まで全国で2000点以上の回復期の血漿が採取されており、臨床上的応用も700人以上。
- 中国の科学研究チームは、現在までに、新型肺炎薬品研究開発及び臨床治療関連の科学研究プロジェクトを累計27件計画、10件以上の成果が診療プランに導入され臨床治療に応用されている。
- 国薬集団中国生物武漢生物製品研究所有限責任会社が研究開発した新型コロナウイルス不活化ワクチン（Vero細胞）I・II期臨床試験が審査に合格し、「審査合格」事前登録状態。同ワクチンは世界で初めて臨床試験の許可を得た新型コロナウイルス不活化ワクチンになった。国薬集団中国生物が開発する新型コロナウイルス不活化ワクチン（Vero細胞）の臨床試験を実施するのは河南省疾病予防管理センター。国薬の

不活化ワクチン生産能力は高く、新型コロナ臨床試験の申請生産量は1ロット5万本以上。量産化後の生産量は1ロット300万本以上、年間生産量は1億本以上。

- 新型コロナウイルスは動物の体内ではあまり増殖しないものの、フェレットの上気道やネコの呼吸器、消化器系などでは増殖しやすく、特に子ネコの場合、非常に感染しやすいことが判明。一方で、イヌやブタ、ニワトリ、カモなどは感染しにくいことを発見。中国農業科学院の研究から。
- 新型コロナに感染し治癒後に再陽性になる問題。大多数が核酸の断片でありウイルスそのものではないが、次の2つに注意が必要。
 - 1) 再陽性者が他人に感染するかは、具体的分析が必要
 - 2) 患者本人に基礎疾患があり、症状が改善されただけで完全には回復していない場合、感染力を持つ可能性がある
- 新型コロナウイルスは既に突然変異を起こして人体で生存しやすい状態になっており、伝播力が非常に強く、致死率がインフルエンザの20倍以上になっているという問題を重視する必要がある。中国の新型肺炎専門家の鐘南山院士の見解。
- 中国当局が、新型コロナウイルスに対する2種類の予防ワクチンの治験開始を承認。これらのワクチンを開発しているのは、シノバック・バイオテックの中国子会社と、中国国営の中国医薬集団総公司の傘下にある武漢生物由来物質研究所。

以下、中国におけるPCR検査などに関する取組の一部です

- 中国政府は、新型コロナ感染状況を、「低」「中」「高」の3段階で発表している地域ごとの感染リスクについて、判定基準の見直しを行うことを決定。また、ウイルスの感染を調べるPCR検査や抗体検査をより大規模に実施していく方針を確認。
- 武漢では新型コロナの無症状感染者の発生状況を把握するため、住民のPCR検査と血清抗体検査を開始。延べ1万1000人を検査する。市民の新型コロナへの抗体レベルを把握し、防疫措置の調整に科学的根拠を提供することが検査の目的。北京市、上海市、重慶市、遼寧省、江蘇省、浙江省、広東省、四川省でも調査を行う。
- 広州市は、市内の学校再開に向け、生徒と教職員を合わせて約20万人に対し、新型コロナウイルスへの感染の有無を調べるため、PCR検査を実施する。検査対象となるのは高校3年生と中学3年生が16万7000人。教職員が約3万人
- 広州市各区で、自主的にPCR検査実施が拡散。越秀、天河、白雲の各区では検査は無料。越秀区では、スタバ店員が感染疑いと診断されたことから、2週間内に同店を利用した人や同店が入居するビルを訪れた人を対象とした無料のPCR検査が実施され、1日で約1500人が検査を受けた。
- 北京市は、近隣の天津市、河北省との間を往来する人に対し、14日間の医学観察措置を実施しないことを発表。他地域から出張で北京を訪れる人についても、PCR検査で陰性が確認されれば、市内で行動できる健康認証「北京健康宝」を交付する。
- 中国政府が新型コロナ感染検査の強化を指示。

- 北京市は、北京市民や北京市に移動してくる人がPCR検査を受けなければならない事例8例を発表。
 - 1) 感染者と疑似感染者は退院から2週間後と4週間後
 - 2) 発熱で医療機関を受診した人
 - 3) 流行病や呼吸器の疾患で入院する人
 - 4) 北京の入国ゲートから入国する人
 - 5) 武漢市から北京に移動してくる人
 - 6) 中央政府機関職員が出張から北京に戻ってきた際
 - 7) 市外から北京に来て宿泊施設を利用する人
 - 8) 市外から戻ってくる中学3年生、高校3年生と教師
- 武漢市の4月8日封鎖解除から15日までに27万5400人に対してPCR検査を実施。検査により182人の無症状感染者が見つかった。
- 中国当局は、武漢市から移動し、国内各地の目的地で公共サービスや交通機関、高齢者施設、刑務所など特殊な場所で働く人や、密閉空間で働く人に対して、武漢を出発前にPCR検査や抗体検査を受けるよう通知。
- 武漢市は、街地の全域が新型コロナウイルスの感染リスクが低い地域になったと発表。これにより湖北省内に高・中程度のリスクがある地域はなくなった。全省が低リスクになるのは2月29日のリスク分類開始以来、初。
- 中国の最重要活動は、新型コロナウイルスの1人の感染者から平均何人に感染したかを示す基本再生産数のリアルタイム値(Rt)と感染確定者の死亡リスクを観測すること。Rt<1を維持し、感染対策緩和を徐々に進めるべきだ。学術誌「ランセット」より。
- 中国における新型コロナウイルスの速やかな抑制は印象的で、他国に心強い手本を示した。感染者の早期発見、接触者の追跡、人々への行動制限などの積極的な公衆衛生介入措置は、中国の感染抑制において大きな役割を果たした。また中国が建設した臨時医療施設は、医療衛生システムの大きな圧力を和らげる上で極めて重要だった。学術誌「ランセット」より。
- 全国の公立医療機関191軒と企業インターネット病院100軒近くが現在、感染症に関するオンライン無料診察を提供。5Gなどのインフラの医療現場における展開を拡大し、病院の情報化、医療設備のスマート化、オンラインプラットフォームの円滑化を推進。

(文責：横井正紀)